

農政連だより

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

発行／熊本県農業者政治連盟 JA 熊本県会館内 熊本市南千反畑町2-3 電話 096-328-1284 編集責任者 木村 幸季
発行／毎月1回 15日発行 平成9年7月4日第三種郵便物許可

6月号

No.246

主な内容

- ・第1回農政連委員会を開催
- ・口蹄疫対策に関する緊急要請を行う
- ・県青協・女性協通常総会開く
- ・JA くま女性部活動報告
- ・ガンバッテます
(田中正通さん、宮野仁美さん)
- ・各連合会からのお知らせ

虫追い祭り(天草市河浦町:写真提供 熊本県)
竹竿に吹流しの「虫追い旗」を取り付けて、田畑の害虫を追い払い豊作を祈願する祭りで、1640年頃に始まったと伝えられており、毎年7月の第3日曜日に催される。



せせらぎ

六月九日、宮崎県都城市の農場で、口蹄疫特有の症状を示す牛3頭が新たに見つかった。農水省と宮崎県は遺伝子検査の結果を待たず、同農場の208頭の牛の殺処分を決定した。そしてそれは、隣接する鹿児島県にも衝撃が走った。鹿児島県は全国でも有数の畜産王国である。また、口蹄疫の拡大は止まらない。

そのテレビの映像に、涙が溢れ出てきた。宮崎県川南町の養豚農家の豚に、口蹄疫感染が確認され、すべて殺処分が決まった。

横たわった母豚の乳房を、元氣よく吸い続ける仔豚たちの分娩畜舎を一棟ずつ回りながら、農婦は手を合わせ、「ごめんね、ごめんね。」と呟いている。あまりにも痛ましい光景だった。

新聞に紹介された、川南町の獣医師は、口蹄疫に感染した暴れる牛たちを押さえ、次々に薬剤を注射し、殺処分しなければならぬ。注射を持つ右手はしびれ、夕方には感覚がなくなっていたと言った。しかし、牛たちに注射しなければならぬ毎日、「肉体的よりも、精神的にきつい。」と漏らしていた。

四月二〇日、宮崎県内で発生した口蹄疫は、かつて経験したことがない規模で拡大している。すでに確認されたもので、二百八十例に達し、殺処分対象の牛・豚等は、十八万五千頭(六月九日現在)を越えている。このまま続けば、宮崎県の畜産は壊滅の危機に瀕してしまふ。

本県においても「対策本部」を設置し、流入防止対策とともに、畜産農家への緊急支援に取り組んでいる。とくに、熊本への感染防止のため、行政、JA・連合会職員等による、県境の消毒ポイントで、二十四時間体制の消毒が続いている。

今回の口蹄疫には、関係者のみならず全国民が、我国の畜産を守るために、立ち上がる必要がある。

第1回農政連委員会を開催

参議選は自主投票に決定！

5月25日、経済連7Fホールにおいて、7月11日に投票が予定されている参議選の対応について協議をおこなった結果、自主投票に決定しました。



▲議案説明をする木村農政連事務局長

当日は、各地区総支部長、各連合会々々長、各生産部会々長、中核農家代表、青壮年部・女性部役員ら委員28名出席のもと、第1回農政連委員会を開催しました。

まず熊本選挙区について、球磨地区総支部から農政連へ提出されていた、自民党の松村祥史氏の推薦願の取り扱いについて協議をしました。すでに、球磨・芦北地区の総支部は松村氏の推薦を決定しており、会議の冒頭、池田洋一球磨地区総支部長から、「現職である松村氏を農政連として推薦していただきたい。」との要請がありました。

そこで、座長の園田委員長は、参加者の全委員から意見聴取を行いました。この中で、自民党とのこれまでの関係を評価する一方、政権党である民主党との関係も考慮しなければならない、との意見が多数出されました。

全委員の意見が出尽くしたところで、園田委員長は「農政連としては自主投票で対応したい。そして、各総支部はそれぞれの地域事情を踏まえて判断していただきたい。」という提案がなされ、全会一致で同意されました。

続いて協議された全国比例区についても、全国農政連の対応と同様に候補者の公認・推薦はしないことに決定しました。

第55回熊本県農協青壮年部協議会通常総会開く



熊本県農協青壮年部協議会は、4月17日熊本市で第55回通常総会を開催（県内盟友や関係者ら約100名が出席）しました。

同総会では、平成21年度事業報告並びに収支決算書の承認及び22年度事業計画など、4議案について承認しました。

西富大二郎県青協委員長は「青壮年部の更なる発展を目指して、次世代の農業者のために、より強固な組織にします。」とあいさつされました。

本年度は重点活動計画として、

- ① 新規部員の加入促進などによる組織の活性化に向けた取組み
- ② JA組織・事業・運営についての学習活動を通して、JA運営への参画促進
- ③ 学校給食への食材の提供など、消費者に対する「食の安全・安心」「地産地消」への理解促進

等を実施します。

口蹄疫対策に関する 緊急要請を行う

4月20日に宮崎県内で確認された口蹄疫については、宮崎県における行政・生産関係者の懸命な取り組みにもかかわらず、新たに都城市等でも発生しています。また、殺処分の対象となる牛・豚の頭数は、現時点で28万頭近く見込まれており、未曾有の非常事態に直面しています。

本県JAグループにおきましても、「熊本県農協口蹄疫対策本部」を設置し、県及び関係機関・団体との連携のもとに、口蹄疫の県内流入防止に向け必死の防疫に努めています。

しかしながら、生産現場からは、球磨地域の一部が移動・搬出制限区域に設定（6月4日解除）されたことや、家畜市場の開催中止などにもなる畜産・酪農経営の先行きへの不安と不満の声が一段と強まっています。

そこで、同対策本部は5月18日～21日にかけて、国、県、県議会、各政党県本部に対して緊急要請いたしました。

要請書（全文）

1. 防疫対策について

(1) 口蹄疫の伝播力は非常に強力であることから、感染拡大防止に迅速に対応できるよう、法整備を含め抜本的な防疫体制を構築すること。

(2) 口蹄疫の感染拡大を防ぐため、さらなる消毒剤の迅速かつ安定確保を図るとともに、農家や関係団体並びに自治体等が要した経費等について、十分な支援措置を講ずること。

(3) 早急にウイルス侵入経路等の解明を徹底的に行うこと。

(4) 移動制限区域内の農場において、長期化によりたい肥の処理ができない懸念があるので、早急にたい肥の保管場所の確保対策を講ずること。

(5) 複数県にまたがるような大規模な企業経営型農場等については、国の管理のもと防疫対策を徹底すること。

2. 金融支援対策について

家畜疾病経営維持資金の融資対象者は、移動・搬出制限区域内の農業者に限定されているが、自主的に家畜市場の開催中止または延期している地域の農業者も、貸付対象者に含めること。

この場合、債務保証の円滑な引受ができるよう特に配慮すること。

3. 経営支援対策について

(1) 移動・搬出制限区域の内外を問わず、家畜市場の延期・休止等により農家に滞留する牛・豚への肥育経費等に、助成措置並びに家畜市場再開後の子牛売却価格が下落し

た場合、再生産可能な水準（40万円）と売却価格の差額を全額補償する対策を講ずること。

(2) 肉用子牛生産者補給金制度及び肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン）の月齢要件については、現在2か月間延長されているが、口蹄疫終息まで長期化の様相を呈しているため、更なる要件緩和の対策を講ずること。

(3) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン）の生産者拠出金の免除対象を、自主的に家畜市場の延期・休止している地域の農業者も含めること。

(4) 移動・搬出制限区域で出荷適齢期の肥育牛の事故牛が発生した場合は、殺処分を行った場合と同等の支援を行うこと。

(5) 終息宣言後においても、本病の影響を受けた農家については、農業経営が容易ならない状況が懸念されるので、生活・営農支援並びに農業再建支援対策などについて、万全な対策を講ずること。

4. 風評被害対策及び消費拡大対策について

消費者が食肉・牛乳などの購入を控えないよう、風評被害を起こさないための確かな対策と、食肉・牛乳の海外輸出の再開並びに消費拡大対策を講ずること。

第57回JA熊本県女性組織協議会通常総会開く



席しました。

同総会では、平成21年度活動報告並びに収支決算書の承認及び22年度活動計画など、4議案について承認しました。

野中育代会長は、「活動を地道に継続することが大変重要です。女性部の皆さんの積極的な参加をお願いします。」とあいさつされました。

本年度は重点活動項目として、

- ① JA全国女性協基本方針に基づく「JA熊本県女性組織基本方針」の策定・着実な実践
- ② JAくらしの活動への取組みへの参画・支援
- ③ 「家の光」の記事を活用したJA女性組織の生活・文化活動の実践
- ④ 地産地消運動や子育て支援など関係組織・地域との連携強化

を掲げました。

女性部活動報告

■ J A くま女性部 ■

清流球磨川・球磨人吉盆地内にあるJAくま女性部は10支部からなり、森下みほ子部長を中心に現在2,285名の部員で活発な活動を展開しています。

下記に、少子・高齢化にともなう高齢者支援活動として、福祉の里「木綿葉」におけるグループ活動や、地域文化活動の一部を紹介します。

『Aコープマーク商品研修会』

組合員の家族が、健康・安全で環境に優しい暮らしをするために、安心・良質な商品を購入しようと、5月12日「Aコープマーク商品研修会」が多良木地区（多良木・黒肥地・久米）の女性部を対象に、上球磨支所2階で開催されました。

当日は、仕事や農作業を早めに切り上げた130余名の部員が集まり、連合会営農生活センター熊見指導員より、商品比較試験・添加物（着色料）洗剤等の研修が行われました。

また、各メーカーより手軽で簡単・節約できる試作実演が行われ、後の試食会では美味しい作り方などを訪ねる部員の方もおられ、和やかな内に研修会が修了しました。

研修会終了後に共同購入注文書の配布を実施しています。各支部地域において「Aコープマーク商品研修会」が開催され、共同購入愛用運動が重要な組織活動になっています。



『藍染体験』

山江支部では、平成21年度からの活動に藍染を取り入れ大変好評です。

参加された部員のみなさんが初めての体験でしたので、今まで知らなかった藍がもつさまざまな効用に驚かれました。

真っ白なハンカチを折りたたみ、輪ゴムで数か所とめておくと白い部分として残り、他は色鮮やかな藍色に染め上がるのです。

ひとりひとり色々なデザインがあり、同じものはふたつとない作品に喜びを味わい、毎回賑やかに開催しています。



『^{ゆうば}「木綿葉」での誕生会』

多良木支部「麓（ふもと）会」（久米）は、5月19日あさぎり町須恵のJAくま福祉の里「木綿葉」を訪れ、施設利用者に踊りや太極拳などを披露しました。

麓会は、当日行われた利用者の誕生会に合わせて訪問。昨年7月に行われた「七夕会」でもダンスなどを披露し、今回で2回目の訪問となります。

当日は同会の6人が「木綿葉」を訪問。松浦加代子さんの「オカリナ演奏」や、会員全員での「太極拳」、「レクリエーションダンス」披露など、利用者15人も一緒に歌ったり踊ったりしました。

恒松美恵子会長は「お誕生日おめでとうございます。時間のある限り皆さんと楽しい時間をすごしたい。」とあいさつしました。





田中 正通さん
JA大浜 トマト部会長

JA大浜トマト部会長 田中さんのお宅を訪問しました。田中さんは、昭和32年10月生まれの52歳。

玉名農業高校を卒業と同時に就農。経営面積は、水田110a、トマト66a、メロン33a。奥さんと息子さんの3人で営農されています。

就農前はご両親が力ボチャの栽培をされていたのですが、就農と同時にメロン栽培に取り組まれました。そして、17年前頃からトマトの栽培を始められています。

トマトを導入して良かったことは、「メロンに比べて気分的に楽なところがあります。メロンは病気等でやられると全部ダメになるが、トマトは取り返しがききます。忙しいけど価格は安定しています。」と語っていただきました。

安全・安心な「大浜の恵」を届ける

14棟のハウスで、トマトは6月末まで収穫し、同じハウスで8月中旬からメロンの栽培を開始されます。

「トマトは当初、桃太郎をやっていますが、今は麗谷という品種を栽培しています。ハウスの中は暑いので午前中に収穫を済ませ、JAの集荷所へ運びます。そして、「大浜の恵」の統一ブランド名で、大阪、名古屋方面に出荷しています。何はともあれ安全・安心をモットーにトマト・メロン作りに励んでいます。」と自身に満ちた顔で話されました。

親子で仲良くやっています

高校の同級生であった最愛の奥さんとの間に、3人の子供さんに恵まれ、民間会社に勤務されていた長男（29歳）が、3年前から就農しています。家族は、田中さんご夫婦、長男さんご夫婦とお孫さん、娘さんの6人家族。

「夫婦2人でやっていた時は54aでしたが、2年間、息子の働き具合を見て、昨年12a追加しました。規模拡大もいですが、一人当たり20a程度が限度ではないでしょうか。当分は、今の経営内容でいいと思っています。」と堅実なところをみせられました。

JA大浜の園芸部会には、100戸ほどの組合員が加入されているが、その内3割程度は後継者がいるとの事です。

好きな言葉

知足・適当 「あんまり欲張らず、無理をせずに、出来たしこで満足するぐらいの気持ち、で喜らせばちよつとヨカ。」と話されました。



▼右から宮野さん、武田さん、竹隈さん



代表 宮野 仁美さん
三加和加工グループ

緑に囲まれた旧三加和町（現在の和水町）の農協施設の一角に、小さな加工所があります。ここで、人気商品のこんにゃくが出荷されています。

3人で作っています

三加和加工グループは、JAたまな女性部の宮野さん（女性部副部長）、武田さん、竹隈さんの3名で運営されています。主な加工品は、こんにゃく、お弁当、惣菜です。年末にはお餅も出荷。手作りの生こんにゃくは、食感がよいと好評です。すぐに売り切れになる時もあります。ほかにも唐辛子、柚子を混ぜたこんにゃくを販売。現在は町営直売所「緑彩館」、JAたまな直売所「いきらめき」、そして福岡市での産直市にも出荷しています。

きっかけは？

最初は女性部の先輩達がこんにゃくを作り始め、宮野さん達が継承しました。以前は個人の加工施設で作っていましたが、5年前からJAの施設の一角を改装して加工場へ。調理設備はほ

んどがもろい物。こんにゃくを茹でる為の大釜は幼稚園からゆずってもらったそうです。足りなかったものもリサイクルショップから購入。搬入は、ご主人達に手伝ってもらいました。

芽が出たり足りなかったり

目玉商品である生こんにゃくは、地元産のこんにゃく芋を使用。同施設にて保管しています。「こんにゃく芋を仕入れすぎて、芽が出てきてしまったことがあります。逆に足りなくて、群馬から仕入れたこともあります。その分価格が倍になってしまいました。」

後継者募集

「儲けは少なくても、楽しんでやっています。収益で食事や、小旅行にも行きますよ。」と、宮野さん。しかし、3名という少人数でこんにゃくを生産しているため、全員の予定が合わない時は作れません。「こんにゃくの出荷量を増やしてくれ、という要望はありますが、それぞれ忙しいので、なかなか量産できません。」

これからの目標として宮野さんは、

「後継者を育てたい。先輩達から受け継いだこんにゃく作りをまた

次の世代に伝えていきたいです。」と話してくれました。



▲こんにゃく芋と生こんにゃく

…… J A 中央会 ……

口蹄疫侵入阻止へ昼夜徹底消毒作業

～ J A 中央会・連合会職員 ～

宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」の4月20日の発生から50日を経過。さらに拡大している中、J A 熊本中央会・連合会10団体は行政と連携して、職員を総動員しローテーションを組み、本県への侵入阻止へ昼夜徹底した消毒作業を行っています。

場所は24時間体制へ強化されたえびの市ルート人吉市大畑消毒ポイント（加久藤ループ橋下）と、新たに12時間体制で人吉市から伊佐市（旧大口市）へ向かう国道267号線（J A グループ熊本自主ポイント）久七峠の消毒ポイントの2箇所です。

大畑消毒ポイントでの作業は、24時間を3交代制で実施しています。県外



▲畜産関係車両に消毒作業する関係職員

からの畜産関係車両に対しては、動力噴霧器で車体下の消毒を行い、車両ナンバー、会社名、荷台の資材名、運転手名、消毒実施時間等を一台一台細かくチェックします。また、一般車両では道路に敷いてあるマットへの定期的噴霧作業等、徹底した防疫作業を行っています。

この消毒作業は、口蹄疫が完全に終息するまで行われます。

第3回熊本県農協口蹄疫対策本部委員会開く

熊本県農協口蹄疫対策本部（園田俊宏本部長）は5月27日、熊本市で第3回対策本部委員会を開催し、対策本部委員や関係団体担当者ら約40名が出席しました。

まず、宮崎県における口蹄疫の発生状況等、同対策本部のこれまでの取組みや、6月も中央会連合会職員による消毒作業を、2ポイントで毎日16人体制で継続すること等を報告しました。

協議では、6月の家畜市場も閉鎖・中止となり、今後の農業経営に支障が生じる可能性があります。このため、管内の繁殖農家と肥育農家の相対取引をすすめてほしいとの提案に対し、えびの市等の今後の状況及び関係者の意向を踏まえ、後日、再度協議することとしました。

また、宮崎県への救援物資については、J A 連合会等の自主判断に基づき、原則として直接 J A 宮崎中央会に送付することを確認しました。

…… J A 経済連 ……

イオン九州での熊本フェア大好評

熊本県と J A 熊本経済連は、6月4日から6日の3日間、イオン九州43店舗で熊本うまいものフェアを行いました。5日に行われたイオンモール筑紫野店でのセレモニーには、J A 熊本経済連の上村幸男会長や熊本県兵谷副知事などが出席し、トップセールスを行いました。会場では、すいかや今が旬の肥後グリーンメロンの試食会も行い、多くの買い物客らが訪れました。

また、同連合会では、試食を行ったすいかや肥後グリーンメロンのオークションを行い、落札者に上村会長より商品を手渡しました。イオン九州株では、およそ250品目の熊本県産の農畜産物が販売されており、スケールメリットを活かした売り場作りや商品開発に取り組み、地産地消を積極的に進めています。この熊本うまいものフェアは毎年開催しており、今後このようなイベントで、熊本県産の全ての農畜産物の販売強化に取り組んでいきます。



▲あいさつをする上村会長

生活事業・組織品目担当者研修会

J A 熊本経済連と中央会・連合会営農生活センターは、5月14日経済連7Fホールで、生活事業・組織品目担当者研修会を開きました。県内 J A の生活事業・組織品目担当者ら約110名が参加しました。

熊本県産米を取り巻く情勢や、J A からの活動についての研修を行いました。従来の「生活活動」を超え、J A での実践と検証・検討を繰り返しながら、組合員・地域住民のニーズに応じたこれらの活動を推進していくことが、重要であることを確認しました。

また、平成22年度共同購入愛用運動の取り組みや、ジュシー愛飲運動・食材事業・冷凍米飯愛食運動・家の光を活用した教育文化活動についての提案を行い、担当者らの意識の向上を図りました。

午後は、共同購入や食材品目商品の品質を市販品との比較テスト等による商品研修を行い、原料にこだわって作られているエコープマーク品について学びました。

J A かみましき購買部生活購買課嘉野志保さんより、J A 職員自らが、くらしに必要な共同購入愛用運動品目を購入。実際に使ってみて、その良さを組合員さんに伝え、運動を広げているという、共同購入愛用運動についての実践報告を行いました。

22年度 JA共済キャンペーン始まりました！

JA共済では、創立以来、みなさまに「お会いすること」を最も大切にしています。

22年度も、組合員・利用者の方々一人ひとりのニーズに則したきめ細やかな保障提供を目指して、全戸訪問活動「3Q訪問活動」に取り組んでいます。

「自身やご家族の保障について気になること、ご不明・ご心配なことなど、JA職員がお伺いしアドバイスいたします。新しい安心は新しい出会いから……。」

「ぜひお気軽にお尋ねください。」
あわせて、日頃の感謝をかたちに「**サンキューふれあいキャンペーン**」を実施しています。アンケートに答えてご応募いただくと、「パナソニック デ

ジタル一眼カメラ」、「パナソニック フードプロセッサ」や、JA共済オリジナル「アンパンマンふわふわクッションセット」などを抽選で三十九万名様にプレゼントいたします。

応募期間は平成22年4月1日～平成23年3月31日までとなっています。詳しくは、JA窓口でお尋ねください。

またこれまでJA共済のご契約がない方をご紹介いただき、その方がご成約された場合、ご紹介くださったみなさまに、JA共済オリジナル「図書カード（千円分）」を先着三万名様にお贈りします。新しい仲間づくりにどうぞご協力ください。



コラム 食と農

朝食を毎日食べている子供ほど、家族一緒にゆっくりと朝食をとっている！

～ JA 全中『小学生の子供の朝食実態調査』結果より～

JAグループでは、安全・安心な国産農畜産物を提供する取り組みとともに、食のあり方や食料自給率の向上をアピールするため、「食は、日本の未来。」をテーマに「みんなのよい食プロジェクト」を展開しています。

今回は、JA 全中が行った食に関する調査を紹介します。JA 全中は、2008年12月、全国の小学生の子どもを持つ母親を対象に、『小学生の子供の朝食実態調査』を実施しました。（サンプル数＝女性600人、調査方法＝インターネット、期間：2008年12月4日～12月7日）

その結果、朝食を毎日食べている子どもほど、みんな一緒にゆっくりと朝食をとり、家族で過ごす時間が長いことが分かりました。「子どもが誰と朝食を食べているか」という質問において、子どもの86.3%は、朝食を父親や母親、兄弟姉妹など「家族の誰か」と食べています。具体的に見てみると「みんなで食べている」（29.6%）が最も多く、次いで「兄弟姉妹」（27.6%）、「母親」（20.3%）と続きます。一緒に朝食をとらずとも、「一緒に食べ

ないが、そばにいる」という声もあり、朝食の時間でコミュニケーションを図りつつ、子どもの様子を気にしているようです。

また、朝食の摂食頻度別で見ると、「週6～7日」朝食を食べている子どもは、88.4%が「家族の誰か」と朝食を食べています。しかしながら、朝食の摂食頻度の低い「週2～3日」の子どもは、約半数が「1人」で朝食を食べています。

「よい食クイズ」

Q.「稲妻」は、雷の光がイネを实らせるという古代の信仰から生まれた言葉だ。

ウソ？

ホント？

←正解は裏面へ

JA共済

ふれあって、深まっていく。顔の見える安心を、あなたに。

JA共済 サツキユー
ふれあい
キャンペーン

抽選で総計**390,000**名様にプレゼントが当たるキャンペーン実施中!
応募期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日
●詳しくは、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。
■ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp>

キャンペーン応援サイト <http://www.3qja.jp>

10481050232

食と農 ひらく未来へ確かな目

「食と農のかけ橋」面を創設

食のニーズ、消費者の声を正しくとらえて産地へ価値ある情報を発信します。月曜日から金曜日まで終面カラーで届けます。

☆ 家族みなで楽しめる「&COO」が☆
☆ 新鮮情報が届く☆
☆ 役立つ情報!! 読みやすい!! 三拍子そろって☆

紙面を刷新▶情報を素早く分かりやすく
役立つ情報を毎日▶農産物市況予測を充実・農業の実用記事を満載、気象見通しを強化

JAグループ
日本農業新聞

購読のお申し込みはJAへ 定価1か月2,550円 JA熊本中央会

【よい食クイズ】

答え：ホント

「稲妻」は「稲のつま」という意味です。「つま」は古代、夫婦や恋人がお互いを呼ぶ言葉でした。雷はイネの花が咲く初夏に多く、雷の光がイネを実らせる、と考えられていたことから「稲妻」という言葉が生まれました。

JA全中発行「ごはんちゃんのお米クイズ(生活編)」より転載

JAグループ熊本

冷凍米飯愛運動推進本部
くまもと売れる米づくり推進本部

食うぞ。まねいぞ。もりもりと!!!

とまめま、突てる三連発。

● 盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部(JA本・支所)へお寄せいただければ幸いです。

連絡先 熊本県農政連

電話 096-3280-1284
FAX 096-3280-5007

● 全長17cm前後で、背は黒く腹は白、額と喉が赤い。尾は長くて先が二股に分かれており、敏捷に飛びながら昆虫を捕食する。日本には夏鳥として飛来し、害虫を食べてくれる益鳥として大切にされており、人家の軒先などに椀形の巣を作る。

● **今来た顔と並べるとつばめかな(一茶)**



● **つばめ(燕)**
スズメ目ツバメ科の鳥

あとがき